

4 街頭犯罪

(1) 路上強盗の状況

平成14年中の路上強盗の認知件数は2,888件、検挙件数は1,104件、検挙人員は1,631人である。最近5年間の推移をみると、認知件数は増加傾向にあり、2.6倍に増加している。検挙人員1,631人のうち、少年が1,027人と全体の63.0%を占めている。依然として検挙人員に占める少年の割合は高い(図表1-31)。

図表1-31 路上強盗の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	1,119件	1,495	2,070	2,509	2,888
検挙件数	873件	925	930	968	1,104
検挙人員	1,503人	1,609	1,645	1,658	1,631
うち少年 (割合)	1,098人 (73.1)	1,111 (69.0)	1,122 (68.2)	1,103 (66.5)	1,027 (63.0)

【事例】広域にわたる少年らによる連続持凶器路上強盗等事件(埼玉、茨城、栃木、群馬)

平成13年12月から本年3月までの間、アルバイトの少年(18)他8名は、4県下において、帰宅途中の男性を金属バットで殴打して金品等を強取するなど、約40件の強盗等を敢行した(3月14日検挙)。

(2) 非侵入盗の状況

平成14年中の非侵入盗の認知件数は126万3,759件、検挙件数は24万7,609件、検挙人員は12万7,440人である。最近5年間の推移をみると、認知件数は増加傾向にあり、検挙件数は減少傾向にあったのが14年に増加に転じた。検挙人員は10万人台で推移しているが、13年から増加に転じた。

非侵入盗のうち、ひったくり、部品盗、車上ねらい、自動販売機荒しの4手口について、最近5年間の認知件数の推移をみると、ひったくり、車上ねらいは一貫して増加しており、部品盗は13年まで増加していたのが14年には減少した。自動販売機荒しは減少傾向にあったのが14年に増加に転じた。また、検挙人員に占める少年の割合が、ひったくりで68.6%、部品盗で64.8%、自動販売機荒しで75.9%と高くなっている(図表1-32)(3ページ 図表1-3参照)。

図 1 - 32 非侵入盗の認知・検挙状況の推移

年次		平10	平11	平12	平13	平14
区分						
非侵入盗	認知件数	845,915件	955,037	1,079,739	1,209,220	1,263,759
	検挙件数	310,390件	299,507	228,420	212,752	247,609
	検挙人員	115,423人	108,241	109,490	115,394	127,440
	うち少年 (割合)	58,212人 (50.4%)	47,477 (43.9)	44,939 (41.0)	47,631 (41.3)	50,453 (39.6)
ひったくり	認知件数	35,763	41,173	46,064	50,838	52,919
	検挙件数	19,636	20,597	14,796	12,925	18,434
	検挙人員	2,605	3,304	3,072	3,078	3,158
	うち少年 (割合)	1,871 (71.8)	2,420 (73.2)	2,179 (70.9)	2,190 (71.2)	2,166 (68.6)
部品盗	認知件数	61,192	73,824	101,338	129,380	128,539
	検挙件数	10,548	10,206	6,527	6,650	7,260
	検挙人員	1,745	1,965	2,006	2,082	2,429
	うち少年 (割合)	1,054 (60.4)	1,234 (62.8)	1,259 (62.8)	1,329 (63.8)	1,574 (64.8)
車上ねらい	認知件数	252,092	294,635	362,762	432,140	443,298
	検挙件数	74,473	73,715	45,666	43,176	48,881
	検挙人員	2,857	2,892	2,933	3,027	3,322
	うち少年 (割合)	742 (26.0)	704 (24.3)	658 (22.4)	663 (21.9)	816 (24.6)
荒自し動販売機	認知件数	181,444	222,328	190,490	170,470	174,718
	検挙件数	43,906	45,754	30,707	18,851	28,962
	検挙人員	2,010	2,192	2,084	2,329	2,850
	うち少年 (割合)	789 (39.3)	1,044 (47.6)	1,196 (57.4)	1,593 (68.4)	2,163 (75.9)
その他	認知件数	315,424	323,077	379,085	426,392	464,285
	検挙件数	161,827	149,235	130,724	131,150	144,072
	検挙人員	106,206	97,888	99,395	104,878	115,681
	うち少年 (割合)	53,756 (50.6)	42,075 (43.0)	39,647 (39.9)	41,856 (39.9)	43,734 (37.8)

【事例 1】少年窃盗グループによる強盗致傷、ひったくり事件（石川）

16歳から21歳までの無職少年等は、数人で犯行グループを形成し、オートバイを利用し主として女性通行人のバッグ等を窃取するひったくり事件を連続的に敢行していた。中には、強盗致傷事件に発展する事件もあった。6月までに、少年等16名を検挙するとともに、県内におけるひったくり事件57件（被害総額200万円相当）を解決した。

【事例 2】広域自動販売機荒し事件（鹿児島）

男(33)は、九州各地において、自動販売機荒し事件を敢行していた。9月までに、5県下にわたる自動販売機荒し事件1,018件（被害総額1,945万円相当）を検挙、解決した。

【事例 3】広域車上ねらい及び部品盗事件（茨城）

男(23)他 3 名は、駐車場において主として乗用車を対象に、車上ねらいや部品盗を敢行していた。9 月までに、9 県下にわたる車上ねらい、部品盗等282件（被害総額1,520万円相当）について検挙、解決した。

（3） 乗り物盗の状況

平成14年中の乗り物盗の認知件数は77万5,435件、検挙件数は 5 万7,928件、検挙人員は 3 万9,589人である。

手口別に最近 5 年間の推移をみると、オートバイ盗の認知件数が25万件前後で推移していたのが、14年には19万8,642件と大幅に減少している（前年比 4 万3,875件（18.1%）減）（図表 1 - 33）

図表 1 - 33 乗り物盗の認知・検挙状況の推移

年次 区分		平10	平11	平12	平13	平14
乗 り 物 盗	認知件数	705,431件	694,375	754,939	827,593	775,435
	検挙件数	121,075件	108,657	69,698	65,435	57,928
	検挙人員	50,426人	48,672	39,469	39,813	39,589
	うち少年 （割合）	36,968人 (73.3%)	34,801 (71.5)	29,268 (74.2)	29,822 (74.9)	29,040 (73.4)
自 動 車 盗	認知件数	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673
	検挙件数	18,210	15,241	11,415	13,390	12,791
	検挙人員	5,495	5,028	4,590	4,933	4,775
	うち少年 （割合）	2,091 (38.1)	1,658 (33.0)	1,531 (33.4)	1,691 (34.3)	1,680 (35.2)
オ ・ ト バ イ 盗	認知件数	246,364	242,977	253,433	242,517	198,642
	検挙件数	43,678	40,356	23,708	19,440	15,725
	検挙人員	18,697	17,296	15,143	14,707	13,106
	うち少年 （割合）	18,202 (97.4)	16,872 (97.5)	14,746 (97.4)	14,288 (97.2)	12,650 (96.5)
自 転 車 盗	認知件数	423,183	408,306	445,301	521,801	514,120
	検挙件数	59,187	53,060	34,575	32,605	29,412
	検挙人員	26,234	26,348	19,736	20,173	21,708
	うち少年 （割合）	16,675 (63.6)	16,271 (61.8)	12,991 (65.8)	13,843 (68.6)	14,710 (67.8)

(4) 街頭における粗暴犯の状況

平成14年中の街頭（道路上、駐車（輪）場、都市公園及び空き地を発生場所とするもの。以下同じ。）における粗暴犯の認知件数は4万2,966件である。そのうち、暴行は1万1,464件、傷害は1万8,981件、恐喝は1万1,975件である。

最近5年間の推移をみると、粗暴犯全体の認知件数のうち、約6割が街頭における犯行であり、暴行、傷害の認知件数の増加が大きい（図表1-34）。

図表1-34 粗暴犯（うち街頭）の認知件数の推移

年次		平10	平11	平12	平13	平14
区分						
粗暴犯全体		41,751件	43,822	64,418	72,801	76,573
	うち街頭 （割合）	23,550件 (56.4%)	25,393 (57.9)	36,442 (56.6)	41,930 (57.6)	42,966 (56.1)
暴行		7,367	7,792	13,225	16,928	19,442
	うち街頭 （割合）	4,165 (56.5)	4,400 (56.5)	7,663 (57.9)	10,122 (59.8)	11,464 (59.0)
傷害		19,476	20,233	30,184	33,965	36,324
	うち街頭 （割合）	10,281 (52.8)	10,750 (53.1)	15,702 (52.0)	18,069 (53.2)	18,981 (52.3)
恐喝		13,900	14,768	18,926	19,566	18,403
	うち街頭 （割合）	8,854 (63.7)	9,957 (67.4)	12,619 (66.7)	13,192 (67.4)	11,975 (65.1)
その他		1,008	1,029	2,083	2,342	2,404
	うち街頭 （割合）	250 (24.8)	286 (27.8)	458 (22.0)	547 (23.4)	546 (22.7)

注：「街頭」の認知件数は、道路上、駐車（輪）場、都市公園及び空き地を発生場所とするものとした。

【事例1】神戸市における傷害事件（兵庫）

2月22日、男(27)は、空き地において、児童3名に棒で次々と殴りかかり、傷害を負わせた（2月24日検挙）。

【事例2】日田市における傷害事件（大分）

6月21日、男(36)は、路上において、自転車で通行中の女性に対して石を投げ付け、傷害を負わせた（同日検挙）。

(5) 街頭における性犯罪の状況

平成14年中の屋外強姦の認知件数は934件、検挙件数は500件、検挙人員は365人である。

最近5年間の推移をみると、認知件数は増加傾向にあるが、検挙件数は500件前後、検挙人員は350人前後で推移している（図表1-35）。

14年中の強制わいせつの認知件数は9,476件で、うち街頭におけるものは5,175件である。

最近5年間の推移をみると、街頭における強制わいせつの認知件数、全体に占める割合ともに増加傾向にあり、件数ベースでは、13年までは毎年1,000件前後増加していた（図表1-36）。

図表1-35 屋外強姦の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	670件	634	859	900	934
検挙件数	577件	451	505	491	500
検挙人員	365人	339	373	362	365

図表1-36 強制わいせつ（うち街頭）の認知件数の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	4,251件	5,346	7,412	9,326	9,476
うち街頭 （割合）	1,873件 (44.1%)	2,569 (48.1)	3,735 (50.4)	5,021 (53.8)	5,175 (54.6)

注：「街頭」の認知件数は、道路上、駐車（輪）場、都市公園及び空き地を発生場所とするものとした。

【事例】連続わいせつ目的誘拐・強姦事件（北海道）

2月11日、男(22)は、帰宅途中の女性に、道案内を口実に自己の車両に乗車させ誘拐した上、車内で強姦した。さらに、同様の手口で強姦等数件を敢行していた（4月11日検挙）。